



## show コマンド

---

この章では、Cisco NX-OS TrustSec の **show** コマンドについて説明します。

# show cts

グローバル Cisco TrustSec 設定を表示するには、**show cts** コマンドを使用します。

## show cts

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

任意のコマンド モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、Cisco TrustSec グローバル設定を表示する例を示します。

```
switch# show cts
CTS Global Configuration
=====
CTS support           : enabled
CTS device identity  : not configured
SGT                   : 0
CTS caching support  : disabled

Number of CTS interfaces in
  DOT1X mode : 0
  Manual mode : 1

switch#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>feature cts</b>	Cisco TrustSec 機能をイネーブルにします。

# show cts credentials

Cisco TrustSec デバイスのクレデンシャルの設定を表示するには、**show cts credentials** コマンドを使用します。

## show cts credentials

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンドデフォルト

なし

### コマンドモード

任意のコマンドモード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、Cisco TrustSec のクレデンシャルの設定を表示する例を示します。

```
switch# show cts credentials
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
feature cts	Cisco TrustSec 機能をイネーブルにします。

# show cts environment-data

グローバル Cisco TrustSec 環境データを表示するには、**show cts environment-data** コマンドを使用します。

## show cts environment-data

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

任意のコマンド モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

Cisco NX-OS デバイスは、デバイスで Cisco TrustSec のクレデンシャルを設定し、Authentication, Authorization, and Accounting (AAA; 認証、認可、アカウントिंग) を設定したあと、ACS から Cisco TrustSec 環境データをダウンロードします。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、Cisco TrustSec 環境データを表示する例を示します。

```
switch# show cts environment-data
CTS Environment Data
=====
Current State           : CTS_ENV_DNLD_ST_INIT_STATE
Last Status             : CTS_ENV_INCOMPLETE
Local Device SGT        : 0x0000
Transport Type          : CTS_ENV_TRANSPORT_DIRECT
Data loaded from cache  : FALSE
Env Data Lifetime       :
Last Update Time        : Never
Server List             :
    AID: IP: Port:

switch#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>feature cts</b>	Cisco TrustSec 機能をイネーブルにします。

# show cts interface

インターフェイスの Cisco TrustSec 情報を表示するには、**show cts interface** コマンドを使用します。

**show cts interface** {all | ethernet slot/port | vethernet veth-num}

## 構文の説明

<b>all</b>	すべてのインターフェイスの Cisco TrustSec 情報を表示します。
<b>ethernet slot/port</b>	特定のイーサネットインターフェイスの Cisco TrustSec 情報を表示します。スロット番号は 1 ~ 255、ポート番号は 1 ~ 48 です。
<b>vethernet veth-num</b>	特定の仮想イーサネット (vEthe) インターフェイスの Cisco TrustSec 情報を表示します。仮想イーサネットインターフェイス番号は 1 ~ 1048575 です。

## コマンドデフォルト

なし

## コマンドモード

任意のコマンドモード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**vethernet** キーワードを表示するには、**feature-set virtualization** コマンドを使用してスイッチの Cisco 仮想マシン機能をイネーブルにする必要があります。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、特定のインターフェイスの Cisco TrustSec 設定を表示する例を示します。

```
switch# show cts interface ethernet 1/5
CTS Information for Interface Ethernet1/5:
  CTS is enabled, mode:    CTS_MODE_MANUAL
  IFC state:              Unknown
  Authentication Status:  CTS_AUTHC_INIT
  Peer Identity:
  Peer is:                Unknown in manual mode
  802.1X role:           CTS_ROLE_UNKNOWN
  Last Re-Authentication:
  Authorization Status:   CTS_AUTHZ_INIT
  PEER SGT:              3
  Peer SGT assignment:    Not Trusted
  SAP Status:            CTS_SAP_INIT
  Configured pairwise ciphers:
  Replay protection:
  Replay protection mode:
  Selected cipher:
  Current receive SPI:
  Current transmit SPI:
  Propagate SGT: Enabled
```

## ■ show cts interface

```
switch#
```

次に、すべてのインターフェイスの Cisco TrustSec 設定を表示する例を示します。

```
switch# show cts interface all
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>feature cts</b>	Cisco TrustSec 機能をイネーブルにします。
<b>feature-set virtualization</b>	スイッチで Cisco 仮想マシン機能をイネーブルにします。

# show cts pacs

EAP-FAST によってプロビジョニングされた Cisco TrustSec Protect Access Credentials (PAC) を表示するには、**show cts pacs** コマンドを使用します。

## show cts pacs

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンドデフォルト

なし

### コマンドモード

任意のコマンドモード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、Cisco TrustSec グローバル設定を表示する例を示します。

```
switch# show cts pacs
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
feature cts	Cisco TrustSec 機能をイネーブルにします。

# show cts role-based access-list

グローバル Cisco TrustSec Security Group Access Control List (SGACL) 設定を表示するには、**show cts role-based access-list** コマンドを使用します。

**show cts role-based access-list** [*list-name*]

構文の説明	<i>list-name</i>	(任意) SGACL 名です。
-------	------------------	-----------------

コマンド デフォルト	なし
------------	----

コマンド モード	任意のコマンド モード
----------	-------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン	このコマンドには、ライセンスは必要ありません。
------------	-------------------------

例	次に、Cisco TrustSec SGACL 設定を表示する例を示します。 switch# <b>show cts role-based access-list</b>
---	--

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>feature cts</b>	Cisco TrustSec 機能をイネーブルにします。



# show cts role-based counters

ロールベース アクセス コントロール リスト (RBACL) 統計情報の設定ステータスを表示し、すべての RBACL ポリシーの統計情報を一覧表示するには、**show cts role-based counters** コマンドを使用します。

## show cts role-based counters

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンドデフォルト

なし

### コマンドモード

任意のコマンドモード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、**feature cts** コマンドを使用して Cisco TrustSec 機能をイネーブルにする必要があります。また **cts role-based counters enable** コマンドを使用して Cisco TrustSec カウンタをイネーブルにする必要があります。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、RBACL 統計情報の設定ステータスを表示する例を示します。

```
switch# show cts role-based counters

RBACL policy counters enabled
Counters last cleared: Never
rbacl:ACS_1101_15
    permit icmp log                [0]
    permit tcp log                  [0]
    deny udp log                    [0]

switch#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>feature cts</b>	スイッチの Cisco TrustSec 機能をイネーブルにします。
<b>clear cts role-based counters</b>	すべてのカウンタが 0 にリセットされるように、RBACL 統計情報をクリアします。
<b>cts role-based counters enable</b>	RBACL 統計情報をイネーブルにします。

# show cts role-based enable

VLAN に対する Cisco TrustSec セキュリティ グループ アクセス コントロール リスト (SGACL) イネーブル ステータスを表示するには、**show cts role-based enable** コマンドを使用します。

## show cts role-based enable

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

任意のコマンド モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、Cisco TrustSec SGACL 強制ステータスを表示する例を示します。

```
switch# show cts role-based enable
vlan:102
switch#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>feature cts</b>	Cisco TrustSec 機能をイネーブルにします。
<b>cts role-based enforcement</b>	VLAN でのロールベース アクセス コントロール リスト (RBACL) の強制をイネーブルにします。

# show cts role-based policy

グローバル Cisco TrustSec Security Group Access Control List (SGACL) ポリシーを表示するには、**show cts role-based policy** コマンドを使用します。

## show cts role-based policy

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンドデフォルト

なし

### コマンドモード

任意のコマンドモード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、Cisco TrustSec SGACL ポリシーを表示する例を示します。

```
switch# show cts role-based policy
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
feature cts	Cisco TrustSec 機能をイネーブルにします。

# show cts role-based sgt-map

グローバル Cisco TrustSec Security Group Tag (SGT) マッピング設定を表示するには、**show cts role-based sgt-map** コマンドを使用します。

## show cts role-based sgt-map

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

任意のコマンド モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、Cisco TrustSec SGT マッピング設定を表示する例を示します。

```
switch# show cts role-based sgt-map
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>feature cts</b>	Cisco TrustSec 機能をイネーブルにします。

# show cts sxp

Cisco TrustSec Security Group Tag (SGT) Exchange Protocol (SXP) 設定を表示するには、**show cts sxp** コマンドを使用します。

## show cts sxp

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンドデフォルト

なし

### コマンドモード

任意のコマンドモード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、Cisco TrustSec SXP 設定を表示する例を示します。

```
switch# show cts sxp
CTS SXP Configuration:
SXP enabled
SXP retry timeout:60
SXP reconcile timeout:120
switch#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
feature cts	Cisco TrustSec 機能をイネーブルにします。

# show cts sxp connection

Cisco TrustSec Security Group Tag (SGT) Exchange Protocol (SXP) 接続情報を表示するには、**show cts sxp connection** コマンドを使用します。

## show cts sxp connection

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

任意のコマンド モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、Cisco TrustSec Security Group Tag (SGT) Exchange Protocol (SXP) 接続情報を表示する例を示します。

```
switch# show cts sxp connection
PEER_IP_ADDR    VRF          PEER_SXP_MODE  SELF_SXP_MODE  CONNECTION STATE
192.0.2.1       default      listener        speaker         initializing
switch#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>cts sxp connection peer</b>	SXP ピア接続を設定します。
<b>feature cts</b>	Cisco TrustSec 機能をイネーブルにします。

# show running-config cts

実行コンフィギュレーションの Cisco TrustSec 設定を表示するには、**show running-config cts** コマンドを使用します。

## show running-config cts

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンドデフォルト

なし

### コマンドモード

任意のコマンドモード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、実行コンフィギュレーションの Cisco TrustSec 設定を表示する例を示します。

```
switch# show running-config cts

!Command: show running-config cts
!Time: Thu Jan 1 05:33:03 2009

version 6.0(0)N1(1)
feature cts
cts role-based counters enable
cts sxp enable
cts sxp connection peer 192.0.2.1 password none mode listener

interface Ethernet1/5
  cts manual
  policy static sgt 0x3

switch#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>copy running-config startup-config</b>	実行コンフィギュレーション情報をスタートアップ コンフィギュレーション ファイルにコピーします。
<b>feature cts</b>	Cisco TrustSec 機能をイネーブルにします。

# show running-config dot1x

実行コンフィギュレーションの 802.1X 設定情報を表示するには、**show running-config dot1x** コマンドを使用します。

**show running-config dot1x [all]**

<b>構文の説明</b>	<b>all</b> (任意) 設定済みおよびデフォルトの情報を表示します。
--------------	--

<b>コマンド デフォルト</b>	なし
-------------------	----

<b>コマンド モード</b>	任意のコマンド モード
-----------------	-------------

<b>コマンド履歴</b>	<b>リリース</b>	<b>変更内容</b>
	5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

<b>使用上のガイドライン</b>	このコマンドを使用する前に、 <b>feature dot1x</b> コマンドを使用して 802.1X 機能をイネーブルにする必要があります。 このコマンドには、ライセンスは必要ありません。
-------------------	---

<b>例</b>	次に、実行コンフィギュレーションの設定済み 802.1X 情報を表示する例を示します。 switch# <b>show running-config dot1x</b>
----------	---

<b>関連コマンド</b>	<b>コマンド</b>	<b>説明</b>
	<b>copy running-config startup-config</b>	スタートアップ コンフィギュレーション ファイルに実行システム コンフィギュレーション情報をコピーします。
	<b>feature cts</b>	スイッチの Cisco TrustSec 機能をイネーブルにします。
	<b>feature dot1x</b>	スイッチ上で 802.1X 機能をイネーブルにします。



# show startup-config cts

スタートアップ コンフィギュレーションの Cisco TrustSec 設定情報を表示するには、**show startup-config cts** コマンドを使用します。

## show startup-config cts

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

任意のコマンド モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、スタートアップ コンフィギュレーションの Cisco TrustSec 情報を表示する例を示します。

```
switch# show startup-config cts
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>copy running-config startup-config</b>	実行コンフィギュレーション情報をスタートアップ コンフィギュレーション ファイルにコピーします。

# show startup-config dot1x

スタートアップ コンフィギュレーションの 802.1X 設定情報を表示するには、**show startup-config dot1x** コマンドを使用します。

## show startup-config dot1x

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

任意のコマンド モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドを使用する前に、**feature dot1x** コマンドを使用して 802.1X 機能をイネーブルにする必要があります。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、スタートアップ コンフィギュレーションの 802.1X 情報を表示する例を示します。

```
switch# show startup-config dot1x
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>copy running-config startup-config</b>	実行コンフィギュレーション情報をスタートアップ コンフィギュレーション ファイルにコピーします。